

令和5年度第4回松野町地域公共交通会議 協議概要

1 出席者

委員

八十島 温夫、田中 勝久、岡 力、松本 真一、酒井 博司、岡村 勝、中脇 優、中湯 廣和、須田 正文、村田 和宏、竹内 義富、長谷 信昭、大内 義昭、豊永 純一、一色 利彦、菊池 勝二、高瀬 康文、谷口 健二、小倉 恭信、窪 仁志、須山 広周、瀧本 美樹、森本 秀行

(欠席：長谷川 喜之、二宮 祐司、友岡 純)

(代理：森田氏、桑山氏、加地氏)

2 報告

(1) 報告第1号 新しい委員の委嘱について

松丸、上家地、奥野川の区長の変更に伴う委員委嘱及び、前副会長の区長会長解任に伴う対応について事務局より説明。

(2) 報告第2号 オンデマンド交通の実証実験結果について

オンデマンド交通の実証実験結果について、事務局から説明。

(主な意見等)

- ・オンデマンド交通の実装化に向けて取り組んでいることはあるか。また、取り組みを行うにあたって、住民ニーズや事業者の意見を聞いたうえで取り組んでいただきたい。(委員)

⇒実装に向けて前向きな検討はしている。

また、住民ニーズについては、昨年度のアンケート調査にて、「今後の公共交通の考え」において、新たな公共交通の導入希望者が約30%ほどと最大であったため、より、ニーズに適したシステムが実装できれば、利用率も増えると考えている。(事務局)

- ・AIでの予約は、近場で複数人が予約した際に異なる車両で対応するといったロスが発生するため、町内での受付を用意する方法が適していると思われる。(委員)

- ・人口の少ない地域で mobi を導入するというのは全国的にも珍しい事例であると思う。ただし、新たに導入するシステムとしては mobi である必要はないと思われる。

現在、全国的にタクシーの新たなビジネスモデルを模索されており、これらの事例の中から、町に合うシステムを検討した方が良いと考えられる。本町は、人口が少ない地域であるため、利用者や利用目的について把握できることが特徴であり、これらを踏まえ、今後の検討をしていただきたい。(委員)

(3) 報告第3号 松野町地域公共交通計画(素案)について

松野町地域公共交通計画（素案）について事務局から説明。

（主な意見等）

- ・会議前の指摘事項については全て回答いただいたということでよいか。（委員）
⇒対応可能な範囲で回答している。未対応の箇所については、次回会議までに対応させていただく。（事務局）
- ・「8.3. 評価指標と目標値」へ記載の現状値について、できるだけ正確な数字を記載していただきたい。ただし、変動しやすい値については、おおよその値で問題ない。（委員）
⇒可能な限り対応させていただく。（事務局）
- ・「9.1. 実施スケジュール」にて、毎年実施される事業があるが、1年間のスケジュールはないのか。（委員）
⇒「8.2. 目標達成のための事業」にて素案から次の会議までに各事業の詳細なスケジュールを検討させていただく。（事務局）
- ・事業3にて、ダイヤの見直しが記載されているが、鉄道や路線バスのダイヤは調整が難しいと思う。どのような見直し方法を考えているのか。
また、事業7の「関係者による公共交通を検討できる場づくり」だが、関係者で話し合う場は設けられると思うが、話し合う前に各地区の区長が事前に住民の声を聞くなど、事前準備を行うことも想定しているか。
「9.2. 推進体制」にて、周辺自治体等と連携を図るとのことであるが、どのような調整をして連携を行うのか。（委員）
⇒ダイヤについては、利用促進と併せて事業者と協議を行い検討したいと思う。各区の区長には、普段から住民の意見を聞いていただいております。その内容は町と共有いただいております。また、区ごとに座談会を開催しており、住民の声を聴く機会がある。
周辺自治体との連携については、利用促進のために、事業者だけでなく周辺自治体とも連携していく必要があるという旨で記載している。（事務局）
- ・区長との話合いが、交通会議の場だけで行われるように読み取れるので、詳細に書いてはどうか。
また、事業3の概要に記載の「利用促進」について、住民特性を踏まえた検討も必要不可欠であるということを書いていただければと思う。（委員）
- ・路線バスの現状報告させていただく。現在、乗務員不足が課題となっており、解消されなければ減便や廃線することになるため、自治体からの協力が今後必要になると思う。（委員）
- ・現在、神戸・大阪行きの夜行バスが運休している。高速バスの便が無くなると、他の公共交通を利用して頂くが、乗り換えが多く使いづらいという人もいる。そのため、バスの運行を維持するために利用促進は今後も行うべきであると思う。（委員）
- ・乗務員不足については鉄道も同じ状況である。若手の離職や採用できないこ

とが続いている。

持続可能な公共交通についてしっかり考えていただきたいと思う。また、鉄道における「持続可能」とは鉄道特性を活かすということであり、鉄道特性は「大量輸送」である。この点を踏まえ、検討いただきたい。

「8.3. 評価指標と目標値」にて、鉄道の利用者数を目標値にて現状値以上と設定しているが、現在の利用者は殆どが通勤通学のための定期利用の方である。さらに、松野町の人口推計を見ると減少していることから、計画履行期間中に現状以上の利用者を賄えるのか疑問である。(委員)

⇒人口推計については、何も対策をしなかった場合の推計値であり、町では、人口構成を「釣鐘型」に戻せるよう政策を行うようにしている。実際、近年は0～14歳の人口が増加傾向にある。これに伴い、目標値を現状以上とさせていただいた。(事務局)

- ・鉄道の存続として、通学の支援拡充等により予土線の利用者を増やす必要があると思う。乗ってもらうためには地域住民がどのような使い方をするのか、危機感を持って検討していただきたい。(委員)

- ・地区総会にて、免許を返納したいが mobi をどこで待てばいいのかわからないため利用できないという人がいた。安心して利用できるようになればと思っている。(委員)

⇒今後、町内全体での運行について検討を行い、安心して移動できるよう住民ニーズを満たせる方法について検討させていただく。(事務局)

- ・現在実証運行している mobi は大きな都市のモビリティ・マネジメントを参考にされていると思うが、人口の少ない地域では、個別の声を聞き、利用者に合わせて運行を行っている。松野町でも、T型集落点検を実施される際に、移動について確認をしてはどうか。人口減少の対策としては、他の地域でも転入者を増やすよう取り組まれているので、出生数を増加や、死亡者数や転出者数を減らすことも重要である。また、公共交通の利用促進は健康促進にもつながっているという研究結果もある。

利用促進を行う際は、乗り継ぎマップは作成しておいた方が良い。(委員)

⇒T型集落点検の際、住民の移動手段についても確認している。今後も継続して実施し、しっかりとした施策を行っていききたい。また、評価指標へも反映させていただく。(事務局)

- ・事業3の事業内容①「鉄道ダイヤの見直し・検討」という書き方を変えていただきたい。(委員)

⇒対応させていただく。(事務局)

3 その他

- ・次回会議は2月下旬頃開催予定であり、近日中に日程調整を行う。(事務局)